

Title	間接部門における業務改善の方法について
Sub Title	
Author	甲斐輝明(Kai, Teruaki) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1070号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1070

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

甲斐 輝明
(東京ガス株式会社)

主査 河野 宏和

副査 小野桂之介
中村善太郎

所属

河野 宏和 研究室

間接部門における業務改善の方法について

近年では、企業において間接部門の規模が膨らみ、その生産性が問題となっている。したがって、業務改善を通じて生産性を向上させることが求められている。しかし、間接部門の業務に関しては、改善のための具体的な方法が存在していない。

このような問題意識から、本論文では、間接業務の改善に役立つ考え方と方法論の考察を行っている。基本的な考え方としては、単純で少ない「もの」・「金」という対象と、それらの部門間でのやり取り（流れ）だけで構成されるスリムな仕事を指すというスタンスを採っている。また、「もの」と「金」の流れを生み出す機能を持つ「情報」を、仕事を分析する際に対象として加えている。さらに、仕事の記述の仕方として、仕事の始めと終わりの区切りにおける対象の状態を表現する「構造図」と、対象の流れを表す「フロー図」というものを考案している。そして、改善案としては、仕事の仕組みを大きく変えるような案を指すという立場に立って、現実の仕事で使われている手段を含んだ具体案ではなく、対象とその流れだけを扱う「構想案」（フロー図で表される改善案）を考察している。具体的な改善方法としては、

- 現状の仕事のやり方を考慮せずに、望ましい対象の流れのイメージに基づいて、新たにスリムな仕事をデザインする方法
- スリムな仕事の構想案と現状の仕事のやり方を比較して、現状の仕事で発生している無駄を排除する方法

という2つのアプローチを提言している。そして、2つのアプローチを東京ガスにおける実際の間接業務に適用して、その有効性を検証している。

このように、手段ではなく、「もの」・「金」・「情報」という対象とその流れに着目し、図（構造図やフロー図）を使ってスリムな仕事の構想案を指す改善方法は、間接業務の改善に大きく役立つものと思われる。